サルビアねっと

済生会横浜市
東部病院　院長
三角（みすみ） 隆彦（たかひこ） 先生

これからの超高齢社会の中で、自分自身やご家族の医療・介護に対して、不安を感じている方も、たくさんいらっしゃると思います。今回はその中で、“医療と介護の連携”について触れたいと思います。

医療は患者さんの病気の治療を行い症状の改善を目指します。介護は日常生活の困難に着目してご本人やご家族の気持ちに寄り添い、より質の高い生活を目指します。医療と介護は深い関連があるにもかかわらず、これまで、発展してきた制度の違い等により分断されて扱われてきました。しかし、この２つは本来、連続的であり密接な関係にあります。病院に入院し、退院後には住み慣れた家でゆっくり療養できる在宅医療を受ける患者さん、ご本人・ご家族の事情によって介護施設に入居する患者さん等、退院後の療養形態には様々な場面が考えられます。そういった中で患者さんご自身が一番安心できることは、自分のこと（病気や病状、これまでの経過）を知ったうえで、それぞれの場所に迎えられることだと思います。

病院から在宅医療・介護とスムーズな橋渡しを行うためには、両者の間で双方向性に的確な情報の伝達が必要です。限定的ではありますが、施設間での書面による情報伝達・連携はこれまでも存在し、かかりつけ医や介護支援専門員（ケアマネジャー）から、ヘルパーへと情報は伝達されてきました。当然、患者さんご自身やご家族からも様々な情報を聞いて、最善の治療や介護をしていきます。しかしながら、時には十分な情報伝達ができていないことがあることも事実です。実際にはご家族が知らないこともありますし、同居をしていないなら、なおさらのことです。

2019年度から、横浜市ではICTを用いた医療介護連携に取り組み始めました。患者さんがどのような病気で入院し、これまでどのような治療を受けたのか、どんな薬を飲んでいるかなどの情報と、食事や居住、生活などの介護の情報をデジタルデータとして保存し共有する仕組みです。この取り組みの手始めとなったのが、横浜市東部地域で稼働した「サルビアねっと」です。現在、「サルビアねっと」には、横浜市鶴見区と神奈川区の病院・医科診療所・歯科診療所・薬局・訪問看護ステーション・介護施設など106施設が参加しています。今後は、施設と住民の参加率を高めるとともに範囲を横浜市域全体に広げ、横浜市内では常に必要に応じて情報を得られる仕組みにしていくことを目指し、ケアされる安心をより多くの患者さんに届けていけたらと考えています。

サルビアねっと　検索